



第135号

宇都宮市立西原小学校
栃木県小学校長会事務局

発行責任者
高山 裕一

印刷所
(有)正栄社印刷所

教育をシフトする (十五年先の社会をイメージして)



栃木県小学校長会長 高山 裕一

本年度の会長を引き受けることになりました。県内各小学校の校長先生とつながらることで、広い視野に立つて課題を共有化し、共に歩んで参りたいと思っております。よろしくお願ひします。

あわせて、熊本地震では、

たくさんの方の小学校でも被害を受け普段の学校教育もままならない状況にあることに、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早く

子供たちの笑顔が学校に戻ることを御祈念いたします。

さて、栃木県教育委員会は、これからの五カ年を見通した「栃木教育振興基本計画2020」を策定・公表いたしました。この中で学校教育を基本としながらも、生涯の人間教育を行う地域のあり方について述べられています。

私はこれを教育のシフトだと考えます。昔、プロ野球の王選手が左の打席に立つと王選手の打撃に対応するため、守備が大きく右に

移動しました。今の小学一年生が大学を卒業する十五年後の社会状況の大きな変化を考えたとき、それに対応するためにやはり教育もシフトする必要があると思えます。

教育の本質は変わりません。自分の人生をたくましく切り拓いていく「生きる力」を育てていくことです。ではどんなことをシフトしていけばよいのでしょうか。私はその一つとして「イメージする力の育成」を意識した教育があると思えます。深く考え思い浮かべる前に現実として物や実際の映像が手に入る現在の社会では、言葉や様子から状況をイメージする機会が極端に少なくなっています。

そのため、文章問題を読んでも内容を自身で映像化できずに何を問われているかが分からない、直接的な言葉のやりとりで相手を傷つけ合っているなど、学校生活の中でイメージする力が不足していることで起きる問題が増加しています。

今、学校現場で板書の工夫やノート指導が重要視されているのは、その解決の一方策だからなのでしょう。私たちは、どうしても自分では動かず周りが改善してくれることを望んでしまいません。しかし、そろそろ学校現場も社会の変化に対応するためのシフトが必要です。2020年オリンピックの年に終了するこの教育振興基本計画は、大きな社会変革に対応した教育のシフトを示唆したものだと思えます。それを見据え、十五年後の子供たちのために、微力ではありますが会員のみなさまの力強いご支援・ご協力を頂きながら全力を尽くす所存ですのでよろしくお願ひいたします。

第六十九回 栃木県小学校長会総会

平成二十八年年度栃木県小学校長会が、五月十九日に県教育会館で、県教育長の宇田貞夫様を始め、多くのご来賓をお招きして開催されました。

高山裕一会長は挨拶の中で、「地域とつながり、生涯学び続ける人間育成をめざす教育の実現のため、私たち学校現場も県教委との連携を深め、目の前の子どもが個に応じた十分な教育を受けられるように努めていきたい。」「今の学校教育を守るのではなく、教育観をシフトし、柔軟に対応できる力こそ今の教員には必要だ。」と述べられました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

研修会では、宇都宮大学教育学部学部長の伊東明彦先生から、「宇都宮大学教育学部の教員養成と地域の公立小学校との連携」と題して講演があり、変わりゆく大学と地域との連携の在り方について、示唆に富んだお話を聴くことができました。

平成二十八年度
活動目標

本校長会は、新たな時代の要請に応える教育の実現をめざし次の基本目標を掲げ、智・徳・体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を一層推進する。

今後、積極的に情報を収集しネットワークを駆使して学校改善のための研修に努め、学校経営及び日常の教育活動を通して積極的に研究・実践を積み重ねていく。

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覧

宇都宮・上三川 高橋 正彦

宇都宮市立戸祭小学校

教育改革が急速に進められていきます。地区内七十六校の校長が互いに学び合い、先見性をもって学校改善に邁進できる校長会を目指します。

上都賀 福田 玲子

鹿沼市立南摩小学校

鹿沼市と日光市の五十三名の会員が、垣根を乗り越えて、研修・交流・連携を深めることで、学校経営力の向上に努める校長会を目指します。

芳賀 小林 律子

芳賀町立芳賀北小学校

一市四町三十二名の会員が、相互に連携を深めながら、今日的教育課題の解決に向け、意欲的に取り組む校長会を目指します。

下都賀 田熊 克己

壬生町立安塚小学校

本地区は、野木町五校と壬生町八校、合計十三校で組織されています。夢と志を持つ児童を育成するため

に連携を深めながら取り組んでいきたいと思えます。

下野市 中澤 清八

下野市立吉田西小学校

会員十二名の組織ですが、相互の情報交換等により連携を強め、校長自ら研修に真摯に取り組む、今日的な教育課題の解決に努める校長会を目指します。

小山市 横塚 貞一

小山市立小山第一小学校

二十七校の小学校長が、自ら研修に意欲的に取り組むとともに、会員相互の連携を図り、「役に立つ校長会」「学び、実践し続ける校長会」を目指します。

栃木市 小松 光博

栃木市立栃木第三小学校

研究主題を「本校ならではの」の特色ある教育活動の推進に向けた学校経営とし、様々な教育課題にチーム栃木で取り組む校長会をめざします。

塩谷 橋本 啓二

さくら市立氏家小学校

①先見性 ②積極性と情熱 ③みずみずしい感性をもった校長を目指し、地区内二十六校の小学校長が、今日的教育課題の解決に向けて取り組んでいきます。

那須 伊藤 清治

那須塩原市立黒磯小学校

那須地区三市町校長会の連携のもと、四十八校の校長が時代にふさわしい教育活動推進に向け、校長同士がさらに連携と融和の図られる校長会を目指します。

南那須地区 高野多起男

那須烏山市立境小学校

本地区の小学校が抱える今日的課題に対し、一市一町九名の会員が連携を深め、一致団結して課題解決に取り組む校長会を目指します。

佐野市 山崎 正美

佐野市立飛駒小学校

一市二町が合併し十一一年目を迎え、佐野市小中一貫教育や様々な教育課題の解決に向け、会員の連携を図りながら、前向きに取り組む校長会を目指します。

足利市 川島 初夫

足利市立山辺小学校

「足利市の教育目標」具現化のため、生涯学習の立場に立った小学校教育の充実に向け、校長自らの資質を向上させることができる校長会を目指します。

平成二十八年度
役員一覧

会長	高山 裕一(宇西原)
副会長	高橋 正彦(宇戸祭)
副会長	横塚 貞一
副会長	橋本 啓二(さ・氏家)
副会長	田熊 克己(壬安塚)
書記	小島 治代(宇・西)
書記	篠原 秀章(宇・峰)
書記	薄葉 保夫
書記	(那・黒田原)
会 計	石島 昌子
会 計	(宇・緑が丘)
会 計	福田 順一(宇・錦)
会 計	久村美千代
会 計	(佐・戸奈良)
会計監査	村山 哲也(足御厨)
会計監査	小瀧 一男
吉澤 卓(那鳥・七合)	(芳・芳賀東)

専門部
活動方針

総務部

部長 小笠原 弘
宇・横川西小学校

一 主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

・ 本会の事業推進及び連絡調整、並びに教育懇談会等による対策活動の推進

・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出(小中学校長会で作成、小学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調

研担当者連絡協議会参加予定(本県の実情等の発表)

研修部

部長 飯山百合子
宇・陽東小学校

一 主題

新しい知を活かし豊かな心をもった子ども
の育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と栃木県小学校長会の基本目標に基づき、次の活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第六十八回全連小高知大会への参加

・ 第六十八回関ブロ東京大会の分散会での提案(那須・塩谷・南那須地区)

・ 第五十九回中央研究大会の実施(研究発表と外部講師による講演)

(三) 研修記録「第五十六号」の編集・発行

(四) 研修記録「第五十六号」の編集・発行

(五) 研修記録「第五十六号」の編集・発行

調査部

部長 稲木 実
宇・姿川第二小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査と学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の状況を調査研究し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 学力向上の取組状況について(一年度)

(二) 小中連携の取組と実施状況について(二年度)

※この二点について、七月上旬から中旬に調査のためのアンケートをメールで送付いたします。

期限までに各地区調査部長へ回答くださいますようお願いいたします。

調査の結果は、報告書にまとめて県校長会ホームページに掲載します。

また、各県の教育活動改善の資料としてご利用ください。

調査の結果は、報告書にまとめて県校長会ホームページに掲載します。

また、各県の教育活動改善の資料としてご利用ください。

厚生部

部長 阿久津雅尚
宇・晃宝小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進します。

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 「栃木県小中学校長会慶弔規程」に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※平成二十八年度は、小学校長会厚生部が県小中学校長会慶弔の会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 齋藤恵美子
宇・御幸小学校

一 主題

県小学校長会の活動目標の具現化にかかわる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報提供を推進する。

(一) 校長会報の年二回発行(七月・二月)

・ 特色ある学校づくり

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力(機関紙「小学校時報」など)

(三) 県校長会のホームページの運営・管理



主張 チーム学校の前提

栃木県小学校長会副会長 高橋 正彦



子どもを取り巻く環境が複雑化・困難化していく中で、専門スタッフとの連携協力によって、多様な課題の解決に当たるといふチーム学校の在り方が提言された。

もつともだと思ふ。社会変容に伴い学校の役割が拡大し、学校だけの対応は限界にきている。是非、チームでの課題解決を進めたい。

しかし課題も多い。かつてある教育長さんから、連携協力は大切だが、相手がそれに値するかが問題だと伺った。ともすると、連携協力の方法が目的化し、課題解決に結びつかず、多忙感が増すことになる。

チーム学校としての連携協力のポイントとはどのようなものだろうか。

まず、専門性であろう。SSCやSSWなどは一定の資格や基準が定められ専門性が保証されている。しかし、子どもや学校文化をどれほど理解しているかが問題である。学校の文脈で専門性を発揮

してくればありがたいが、空回りでは逆効果になる恐れもある。

そのために、目標や情報の共有が必要である。事実に基づいた情報が共有され、目標や具体策が役割に従って立てられていることが大切である。しかし、状況は刻々と変化し、次第にズレが生じる場合もある。

そのため、専門スタッフが相互に忌憚なくコミュニケーションを行い、それらを柔軟に見直しができるようにする環境が必要である。子どもや保護者の実態や想いを把握し、そこを離れずに対応できるようにしたい。

対等な立場で互いの専門性を発揮できるコミュニケーションは、チームでの協働の前提となるものだろう。

チーム学校が機能するためには、コミュニケーションが豊かで風通しのよい職場環境と、専門スタッフに信頼される我々自身の専門性が必要である。そして、我々の専門性とは授業力に他ならない。

主張 今、大切にしたいこと

栃木県小学校長会副会長 横塚 貞一



『十二支物語』という書物の中に「犬馬は難しく、鬼魅は易し」という言葉があります。

この言葉の意味について作者は、次のように述べています。

「画を描く場合、犬や馬のようにすべての人が常に見馴れているものは、描きやすいようにみえて実は難しい。これに反して、鬼や魅(怪物)のように人が見たことのないものは、描くのが難しいように感じますが、実はその方が簡単に描けるといいます。考えてみると、犬馬は誰もが知っているから批判が多い。鬼魅は何人も知らないから、何を描いても批判できない人がいない。だから描く方からいえば、かえって気安く描きやすいというわけです。」

さて、国では、学習指導要領の改訂に向け、現在、昨年八月に出された「論点整理」の方向に沿って、各部会にて検討が重ねられていると聞きます。

巷では、「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」の文字が教育書にあふれています。

国や学校がどんなに優れた教育理念やビジョン等を示し、どんなによい計画を編成したとしても、日々の教育実践が充実しなければ「生きる力」をもつ子どもの育成はできないと考えます。教育の成否は、教職員一人一人にかかっているのです。そう考えると、我々校長の最大の課題は、「自校の教職員をいかに育てるか」ではないでしょうか。

今、学校(校長)が大切にしたいこと、それは、原理・原則を大切に、眼の前の子どもの幸せのために「当たり前」の当たり前に「当たり前のこと」を当たり前に「当たり前のこと」ではないでしょうか。

教師の姿勢は、子どもを変えませんが、まさに「教育は人なり」なのでしょう。鬼や魅にとらわれないように正道を進みたいものです。

豊かな心をもち 輝いて生きる子どももの育成を目指す学校経営

地域の団体と連携した豊かな体験活動

下野市立国分寺東小学校 高山 玲子

本校は、JR小金井駅から東に徒歩十五分のところにある児童数二七七名の学校です。学区は学校を境に西側が住宅地、東側が農村地帯と分かれています。地域の

方々の学校への思いや関心は高く、見守りボランティアや読み聞かせなど様々な形で学校に協力してくださっています。その中から特に地域の団体と連携した活動を紹介します。

一 コミュニティ推進協議会と連携した活動

学校に隣接したコミュニティセンターで、一年生が協議会の方々と年間二回交流活動を実施しています。七月には一緒に七夕飾りを作り、学校の体育館に飾ります。また、一月には、昔遊びを教えてください。毎年多くの協議会の方々が参加してくださり、竹や飾り、竹馬、羽子板などの道具まですべて協議会の方々が準備してくださいます。

二 環境保全会と連携した活動

三年生の生き物調査に例年十名以上の方が指導に来てくださいます。

す。各班に二人から三人の指導者がついてくださるので担任だけではできない活動を行うことができます。また、四年生の田植えや稲刈りの活動にも十名以上の方が協力してください。一昨年、環境保全会からの提案で新たにしめ縄づくりを取り入れました。三人一組のグループごとに指導者がついてくださったおかげで協力してしめ縄を完成させることができました。

学校以外でも、コミュニティ推進協議会は、祭りや餅つき、たこ揚げなど様々な活動を実施しています。環境保全会は、学校の東側の用水路でホタルを育てていて、五月中旬からホタルを見ることができ、これからも地域の団体の方々と連携して豊かな体験活動に取り組んでいきます。



力を合わせて しめ縄づくり

小さな自信を育てる学校を目指して、ワクワク感あふれる豊かな体験活動を通して、

矢板市立西小学校 小川 光正

本校は矢板市の西部に位置し、児童数三十二名で、一・三年生および四・六年生が複式学級である。(五年生の在籍はゼロ。)

このような中で、少人数の特色を最大限に生かし、人や自然とたくさんふれあう体験を取り入れ、「ワクワク感あふれる、一人一人に小さな自信を育てる学校」をめざしている。

子どもたちは、ワクワクしながら多様な体験活動に取り組んでいる。

① 高齢者の方々と

・ シニアクラブの方々と除草活動を行い、活動後は六年生がお茶を出したり肩もみをしたりしながら過ごす。

② 地元の県立矢板高校と

・ 田植え、稲刈り、りんごの収穫、川歩き体験、ご飯炊き、お弁当づくり

③ 学区内探検 (二年生)

・ 地元の方から学区内の昔の施設跡や湧水地等の説明をいただいている。

④ 高原山ハイキング

・ 保護者に付添ボランティアをお願いしている。

⑤ 外部講師による体験活動

・ 全校音楽教室
地元矢板市出身で全国的に著名な作曲家を講師に、「ジャズ風大きな古時計」を全校合奏し、その成果を、十一月の学習発表会で披露した。

・ 全校絵画教室
地元のアーティストを講師に迎え、また、保護者も自由参加とし、色鉛筆による絵画教室を実施。

・ 数時間の指導であったが、一年生でも立体的にりんごを描くことができ、驚きであったし、子どもたちは自信を深めることができた。

・ 全校スケート教室

体のバランス感覚を養うことと冬場の体力づくりのため、日光にてスケート教室を実施。日光市のスポーツクラブの方を講師として、保護者もボランティアとして参加。



リンゴの描き方を教わる西っ子

特色ある学校づくり

地域の中で育つ子どもたち

宇都宮市立陽光小学校 倉田 孝明

本校は宇都宮市の南部に位置し、地区内には栃木県総合運動公園・陸上自衛隊北宇都宮駐屯地などの施設に囲まれている。

以前は、田・畑・雑木林・飛行場であったが、昭和四十八年の耕地整理を機に急激に住宅が増加し、宇都宮を代表とするベッドタウンになってきた。恵まれた自然環境、多くの公園、公共施設などがあり、児童・地域住民にとっては抜群の生活環境である。そんな中、本校は昭和五十五年に創立した。栃の葉国体開催の年にできた学校である。そして今、平成三十四年の国体に向け競技場の建設・道路の拡張が始まっている。

本校は総合的な学習の時間や生活科、縦割り班の活動など地域の人々とふれあう交流活動を通して、相手を思いやる心情やコミュニケーション力を身に付け、『望ましい人間関係を構築するとともに、地域を愛する心情を養い、地域の人々と共に生きる力』の育成を目指している。

三年生「開こう、福祉へ」とび

ふるさとへの愛着と誇りを育む「ふるさと学習」

栃木市立大平西小学校 星野美智夫

本校は太平山の麓に位置する児童数三九四名の学校です。

本校では、長い歴史の中で培われてきた校風を継承し、『郷土を愛し、誇りに思える』学校づくりに努めています。本校の特色として、地域の特産物や自然環境等を生かし、地域の方々を支えられたふるさと学習があります。

その中の一つは、「特産物のぶどう」をテーマにした三年生の総合的な学習の時間です。ぶどうを生かした物について調べたり、ゲストティーチャーや保護者と連携して「ぶどう染め」の体験活動を行ったりしています。児童は世界にたった一つの自作の染め物を手

にたつた一つの特産物の素晴らしにして、郷土の特産物の素晴らしさを感じながら、満足感いっぱい

の笑みを浮かべます。

次に、地域の自然環境を生かした学習です。四年生では「環境問題」をテーマに地元の自然環境保全会の協力を得て、「水路及び田んぼの生き物調査」を実施しています。危険防止のため子どもだけの川遊びを禁止している昨今、初め



心を込めて演奏する3年生

今回の活動から三年生は、相手の立場に立つて自分たちはどのような行動ができるかを考えることができたようだ。

て川に入る児童も多く、児童本来の生き生きとした姿が見られました。そして、今まで見たことのない生き物が見つかる、児童は目を輝かせます。調べて分かったことは、その後、「生き物マップ」にまとめ、自分たちの考えを加えて、発表会を実施しています。県の生き物マップコンテストで、特別賞をいただいたこともあります。

このように地域の教育資源を生かしながら、児童が主体的に学習を進められるように支援し、問題解決能力の向上と自己の在り方や生き方についての考えの深化を図っています。

これからも、地域の中に生き、地域と一体となった教育を推進し、ふるさと大平に愛着と誇りをもてる児童を育てていきたいと考えています。



川の生き物調査



栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長
久保田弘子

本会は、県内公立小・中学校の女性校長と副校長・教頭で組織されています。今年度は、校長九五名と教頭（副校長）百七三名、計二六八名が会員です。

主な研修として、五月には栃木県教育委員会教育長宇田貞夫様をお迎えし、ご講話をいただきました。「『ことば』のもつ力」というテーマで、児童生徒に適切な指導をするためにはことばのかけ方一つで、子どもは素直に話をする、そこには必要十分条件が成立する等、数学の先生らしいことばも伺い、実直なお人柄が伝わるともすてきなお話でした。

八月の第二回研修会では、校長・教頭の代表による実践研究の発表会並びに、南三陸町で被災された後藤一磨様をお迎えしての、ご講演を予定しています。

また、来年は七月に関東地区公立小・中学校女性校長会研修会栃木大会が予定されています。ともに研鑽に励み、会員の結束を固め、積極的に活動をしていきたいと思



「とちぎの子どもたちの学力向上に向けて」

栃木県教育委員会事務局
学校教育課

県教育委員会では、「とちぎっ子学力アッププロジェクト」を平成二十六年年度から推進しております。この二年間で、調査結果を全教職員で分析したり、課題改善に向けた授業研究会を定期的の実施したりするなど、県全体に学力向上の気運が高まりつつあると実感しております。

四月十九日には第三回目となる「とちぎっ子学習状況調査」を実施いたしました。六月末に返却された本調査結果を、児童生徒に対するきめ細かな指導や学校の検証改善サイクルの確実な運用に生かしていただきますと思います。

今、各学校の検証改善サイクルが、力強く回り始めています。全教職員が主体的に取り組み、粘り強く実践を続けることで、児童生徒一人一人に、確かな学力を身に付けさせることができると考えます。校長先生のリーダーシップの下、学校全体で学力向上に向けた組織的な取組を進めていただきたいと思います。

平成二十八年度

関フ口理事会だより

副会長 高橋 正彦

五月六日（金）東京都港区「ベイサイドホテル アジュール竹芝」で、第一回理事会が以下のように開催されました。

○会長あいさつ

○協議

・平成二十七年年度会務報告、決算・会計監査報告

・平成二十八年度役員選出

・平成二十八年度事業計画、予算案

・第六十八回東京大会運営要領・宣言文案等

◆第二分科会（那須）

◆第六分科会（塩谷）

◆第十一分科会（南那須）

・第六十九回神奈川大会

平成二十九年六月十五、十六日

神奈川県民ホール他

◆○知性・創造性 ○学校安全

○連携・接続

三提案（下野 下都賀 足利）

○情報交換

・組体操の実施・対応

・英語教科化への対応

・政令市と県との関係

・教職員評価

・熊本地震への対応

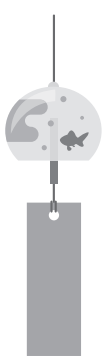
「全国連合小学校長会

第六十八回総会から」

栃木県小学校長会長
高山 裕一

五月二十五日、東京虎ノ門ニッショーホールにて全連小理事、代議員約六百名が参加、来賓として馳文部科学省大臣をお迎えした総会、文科省よりの行政説明を中心にした研修が開催された。大橋会長からは、「新学習指導要領の改革が教室の中に入るように・教職員定数の改善・全連小組織運営の見直し」について、馳文科大臣からは、五月十日の大臣メッセージ「教育の強靱化」等教育改革の注視。各部の報告（後日配付）があった。

研修では浅田審議官より「教育実行再生会議第九次提言・馳プラン」等の講話、各課長より「教職員数確保のための調査協力・アクティブラーニングにおける深い学び・英語教育の予定・LGBT」等について説明があった。特に学力テストの目的は「課題発見と児童理解」との指導があった。



話題の広場

学校の新たなシンボル

二宮金次郎像

日光市立南原小学校 関 孝和

南原小学校は、四月に開校三十周年を迎えた。

去る三月一日に「報徳道研修いまいち一円会」様から『二宮金次郎像』が寄贈され、創立三十周年記念式典と併せる形で、除幕式を開催したところである。

座っている二宮金次郎像が大きな話題となり、テレビ局、新聞社の取材攻勢は一か月間ほど続いた。想定外の出来事であった。

しかし、像が座っているという話題性ではなく、学校経営と関わる部分で、像が設置された意義は大きい。

全国的に二宮金次郎像は、学業や勤勉、親孝行、優れた人間性が経営の柱であり、人としての立ち居振る舞いを身に付け、立派な人間になることを目指している。像は正に「本校の目指す姿」となっている。

登校してきた子ども達が、「金次郎さんおはようございます。」と挨拶する姿が微笑ましい。新たなシンボルとなった金次郎像も「今日も一日頑張ろうね。」と穏やかに語りかけている。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

渡邊 昌子

県小学校長会は、各地区小学校長会で組織する連合機関であり、その主体的活動の充実強化を図るために運営拠出金を設定し、運営拠出金の保管と管理を図るために運営拠出金委員会を設けています。

本会費は、新会員の皆様に拠出していますが、県からの補助金カット、市町からの法令外負担金の減額に伴う本会計への補助もあり、基金造成は年々、困難な状況になってきています。

今年度から、平成三十三年度の関プロ小学校長会栃木大会に向けて準備資金や開催資金を用意するために、また、法令外負担金確保のために、本会計研修等への補助と各地区研修費には補助金は支出せず、積み立てていくことにしました。

各地区の会員の皆様には、運営拠出金の状況等をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長

野中 政治

五月十九日の定期総会(代議員制)では、平成二十七年事業報告・決算報告、平成二十八年事業報告・活動目標・事業計画・予算案審議があり、承認されました。新年度の方向性が決定し、小学校長会の活動が順調にスタートしました。

平成三十三年度に小学校長会関プロ栃木大会を開催することにより、準備・開催資金を確保しておく必要があります。そこで、各会計の支出の見直しを行いました。

今年度は、関プロ大会が東京で、全連小大会が高知で開催されます。なお、関プロ大会で、塩谷・那須・南那須地区が発表します。

さて、事務局は、今年度も野中事務局長と高柳事務局長です。勤務は九時～十六時(昼休み一時間)です。

不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。

編集後記

四月十四日に発生しました熊本地方を震源とする最大震度7の大規模地震が発生し、今でも多くの方々が被災していることに、心よりお見舞い申し上げます。

本県でも、東日本大震災や竜巻による被害が過去に発生しており、改めて児童生徒、教職員の安全確保の必要性を感じます。

校舎や体育館等のハード面では、耐震補強工事や強化ガラスへの変更など改善が行われています。

ソフト面では、各種災害等に対応した避難訓練等を行うことにより、今まで以上に児童・生徒が自ら危険を予測し回避するための知識や判断力を身につけさせることが重要なことだと思えます。

真岡市立東沼小学校

直井 正行

